

園長メッセージ



昔から「子孫のためには美田は買わず」とか、「若い時の苦勞は買ってでもせよ」とか言われます。どこに売っているのかわかりませんが…。そして講演会などで、多くの先生方が異口同音で言われるのが、「子どもに過干渉、過保護はいけない」ということでした。

しかしながら現在は子どもにとって幸か不幸か、至れり尽くせりの時代になっております。

誰しも、子どもにつらい思いや苦勞はさせたくないと思う親心は当然です。

ある先生とのお話で、「自分の子をどんな子にしたいのか？自分ぐらいの人間にするには少なくとも自分（親）と同じぐらいの苦勞をしなければならないし、自分以上の人間になってほしければ、それ以上の苦勞をしなければならない。」とっておられました。

一口に苦勞と言っても、人によって捉え方も様々です。業と捉えるか、困難と捉えるか…。そして、しなくていい苦勞、無駄な苦勞、余計な苦勞、それに反して「しておくべき苦勞」というものがあると思われるのです。我々は子どもたちが「しておくべき苦勞」とは何か？を常に意識しておかなければならないのかもしれないかもしれません。それとも、それ自体が過保護なのか…。